Topic 53

米国ルイジアナ州とアーカンソー州の VCP

１）こんなところです
２）ルイジアナ州とアーカンソー州の自主浄化プログラム

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。今週は、ルイジアナ州とアーカンソー州にスポットを当ててブラウンフィールド再開発をみてみます。

１）こんなところです

メキシコ湾岸のちょうどミシシッピ川河口に位置するルイジアナ州。州人口約 450 万人、人口密度は約 40 人/k ㎡。1812 年 4 月 30 日、18 番目に米国に加入しました。同州は、昨年８月に発生したハリケーン カトリーナの被災地です。メディアから流れる被災状況は何とも痛ましいものでした。カトリーナによってメキシコ湾岸にある米国の主要油田地帯では原油産出が中断、さらには原油精製施設も被害を受け、国の原油価格は高騰。その影響で米国の航空会社が倒産するなど生々しいニュースが飛び交いました。

ルイジアナの州都はオースティン。州最大都市は港町ニューオーリンズ･･･だったのですが、ハリケーン被災後にはオースティンが最大都市になってしまいました。（ニューオーリンズにおけるカトリーナ被災状況については、坂野のつけたし参照）。米国の中でも比類なくユニークな文化が根付き、マルディグラという賑やかなお祭りでにぎわうニューオーリンズ。どんなことがあっても、何がおこっても、ここでは音楽が流れ続ける。今年も Jazz Fest 2006 が開催されたこと、本当にすばらしいと思いました。

さて、ルイジアナから北上すると、そこはアーカンソー州。アーカンソーといれば米国第 42 代大統領ビル クリントン氏の出身州です。州都および最大都市はリトルロックです。州人口はおよそ 280 万人、人口密度は約 20 人/k ㎡、1836 年 6 月 15 日、25 番目に米国に加入しました。同州の主な産業は農業。ここは米国の米どころなのです。デルタ地方と呼ばれる州東部には肥沃な土壌による平野が広がり、お米のほかに大豆や綿花などが生産されています。北に位置するオザーク地方には数々の州立公園や温泉があり、ひそかに？人気のある観光地とか。南のティンバーランド地方は、巨大スイカの名産地があるそうです。

２）ルイジアナ州の VCP とアーカンソー州の VCP

ここからは、本題の汚染サイトの自主浄化プログラムについてです。ルイジアナ州の自主浄化のプログラム正式名は Voluntary Remediation Program（VRP）。一方のアーカンソー州には自

主浄化プログラムがなく、Brownfield Program を運営しながら、その中で自主浄化促進に取り組んでいます。

両プログラムには、環境メルマでおなじみになった自主浄化の基本的な要素（財政インセンティブ、環境責任保護、土地利用にあわせたリスクベースの浄化目標、Institutional Controls（IC）利用許可など）が一応用意されています。しかし、実際に手がけたサイト数は大変少ないです。ちょっと数値で見てみましょう。

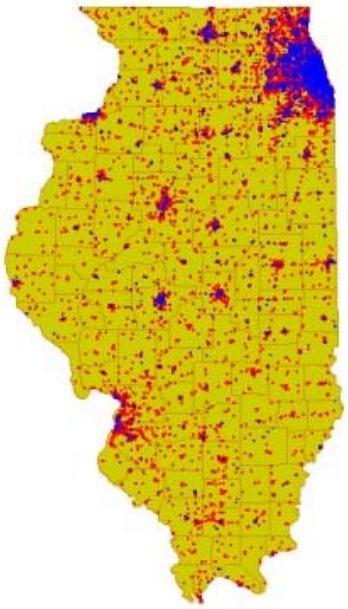
ルイジアナ州（2005 年 6 月の時点）：全登録サイト数 55 件。そのうちプログラムを終了したサイト数は今ある情報からは分からない。（ご存知の方は、教えてください。）

アーカンソー州（2005 年 12 月の時点）：全登録サイト数 44 件。そのうちプログラムを終了したサイト数は 11 件。

これまでみてきた東海岸や西海岸、そして五大湖周辺の州と比較すると、両州の行政はブラウンフィールド再開発にそれほど力を入れていないようです。ブラウンフィールド問題は地域の環境・経済・社会状況によってプロジェクトの重み付けや特徴が変わってくるので、地域差が生じることは当然です。

ここでちょっと、Topic47（９月発信）で紹介したイリノイ州と今ご紹介しているアーカンソー州のブラウンフィールドサイトマップを比較して見ましょう。

イリノイ州（面積：およそ 15 万km^2）



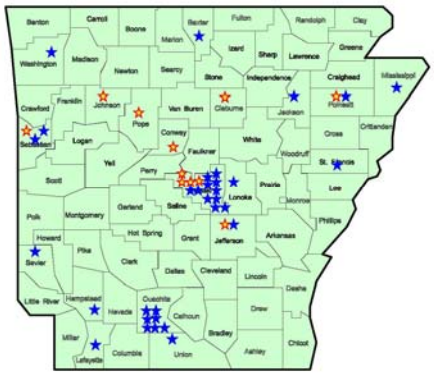
（http://www.epa.state.il.us/land/database.html）。

青い点：州の自主的浄化プログラムを終了または登録中のサイト（つまりブラウンフィールド）

赤い点：漏洩地下貯蔵タンク（LUST：Leaking Underground Storage Tank）が存在するサイト

では次にアーカンソー州のブラウンフィールドサイトマップを見てみましょう。

アーカンソー州（面積：およそ 14 万km^2）



（http://www.adeq.state.ar.us/hazwaste/branch_inactive_sites/pdfs/public_record_of_bf_projects_for_website_051201.pdf）

青い点：州の自主的浄化プログラムで浄化中のサイト（33 件）

赤い星：州の自主的浄化プログラムを終了したサイト（11 件）

州によって VCP の取り組み状況がこれほど違うこと、一目瞭然！日本でも VCP 的な仕組みを展開していくと、こんな風に都道府県によって違いが現れるでしょうね。

米国における地域ごとの違いをみると、VCP、つまり自主浄化活動を地方行政（州）に任せるスタイルをとってきていることは理にかなっています。ただし、国は地方にただ任せっぱなしではなく、ブラウンフィールド法を成立させて、土地取引の際に障害となる土壌汚染の責任問題に解決の道筋をつけ、中小企業の負担を軽減するための仕組みを作って、国内全体のブラウンフィールド再開発のムーブメントを盛り上げるという役割を演じているのですね。

来週は、ニューメキシコ州の VCP をご紹介いたします。お楽しみに。

Thanks God It’s Friday!

Thanks God It’s Brownfield!!

環境メルマ　佐藤（t.sato@ers-co.jp）

坂野のつけたし（banno@ers-co.jp）

Nickname　-▼ルイジアナ州：「The Pelican State（ペリカンが州の鳥）」「The Bayou State（バヨゥはあまり流れのない川のこと。ミシシッピ川の河口にこの州があります）」「The Creole State（クレオール料理を食べながらジャズでもいかが？）」▼アーカンソー州：「The Natural State（美しい自然に恵まれている）」「The Land of Opportunity（1995 年まではこれが州の正式ニックネーム）」「The Wonder State（1947 年まではこれが州の正式ニックネーム）」「The Hot Springs State（温泉国立公園がある）」

事例紹介　-New Orleans（ニューオーリンズ）：2005 年 8 月 29 日、ルイジアナ州に上陸したハリケーンカトリーナは、2000 人近い人たちの命と 100 万人を超える人たちの生活を奪いました。

とくにジャズの都として知られているニューオーリンズは、その面積の 8 割が水没したといわれています。

市街地には、洪水後、床部分だけが残されたクリーニング店や給油施設がいくつか認められ、ドライクリーニング剤やガソリンによる汚染が発生しました。EPA が行った土壌分析では、砒素やディーゼルオイル、多環芳香族と呼ばれる化合物が、健康への影響が懸念されるレベルで、広い範囲に認められています。そのほか、アスベストやカビといった問題についても注意を払わなければなりません。

市街地の復興は、このような環境問題に配慮しながら着実に進められていると聞きます。一方、生産施設関係ですが、米国環境保護局（EPA）は、2006 年にニューオーリンズの地域工業団地（Regional Business Park）に対して 40 万ドルのブラウンフィールド助成金を交付します。この工業団地の面積は約 2800 ヘクタール、カトリーナが来る前は、87 の会社が 1 万人以上を雇用していました。この工業団地には廃棄物焼却場、不法投棄地、廃車ヤード、殺虫剤工場などがあり、少なくとも 12 箇所のブラウンフィールドがありました。そこへハリケーンによる洪水があり、あらためて状況を洗いなおす必要が出てきました。助成金の半分を使って、少なくとも 6 件のフェーズⅠ、3 件のフェーズⅡ（サンプリング分析調査）、そして、2 件のリスクベースでの浄化計画作成が行われます（http://www.epa.gov/brownfields/06arc/neworleans.pdf）。